禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D17

「中央職業能力開発協会編」

令和６年度 技能検定
３級 配管 学科試験問題
(建築配管作業)

1. 試験時間　１時間
2. 問題数　30題
3. 注意事項
   (1)　係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2)　答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3)　係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。
   (4)　試験開始の合図で始めてください。
   (5)　解答の方法(真偽法)は次のとおりです。
   イ.　一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
   ロ.　答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
   ハ.　答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。
   (6)　電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7)　携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8)　試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9)　試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10)　試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11)　試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

1　パイプレンチは、鋼管を切断するための工具である。

2　硬質ポリ塩化ビニル管の切断部の内外面は、面取りを行う。

3　鋼管の接合法には、ねじ接合、溶接接合等がある。

4　ステンレス鋼管の切断の一つに、高速といし切断機での切断がある。

5　屋内排水管における漏水の有無は、一般に、気密試験によって行う。

6　保温工事に使用する保温材の厚さは、管径によらず一定である。

7　アセチレン容器は、横にして使用する方がよい。

8　スイング式逆止弁は、水平配管に使用できる。

9　日本産業規格(JIS)の配管の簡略図示方法によれば、次図は、バルブ一般を示す図記号である。



10　安全靴、墜落制止用器具及び防じんマスクは、保護具の一種である。

11　排水管は、管径が大きいほど勾配を大きくする。

12　給湯配管の施工に当たっては、水の膨張、配管の伸縮及び水中からの空気の分離を考慮しなければならない。

13　衛生陶器を取り付けるときは、片締めにならないように、力が均一に加わるようにする。

14　循環式給湯配管方式には、上向き式給湯配管法、下向き式給湯配管法及びそれらの併用法がある。

15　温水配管は、熱膨張による伸縮を考慮した施工としなければならない。

16　排水系統にトラップを使用するのは、下水の汚臭などが室内に侵入するのを防ぐためである。

17　ボイラや貯湯槽からの排水は、排水管に直接接続する。

18　FRP製の水槽に給水管を接続する場合は、フレキシブル継手を介して行う。

19　ウォータハンマが生じると、騒音や振動が問題となるばかりでなく、配管、機器等の損傷の原因となる。

20　逆止弁は、一般に、汚染された水が給水配管内に逆流するのを防ぐことができる。

21　硬質ポリ塩化ビニル管と銅管を直接接合すると、管の腐食の原因となる。

22　ポリエチレン管は、土中埋設給水配管に用いることができない。

23　ライニング鋼管の切断には、高速といし切断機を用いるとよい。

24　給水管へ排水などが逆流しないよう、吐水口空間を設ける。

25　給湯循環ポンプは、給湯管内の温度低下を防ぐために設ける。

26　圧力計は、一般に、最高目盛が使用圧力の5～10倍のものを使用する。

27　温水ボイラの逃し管の途中には、仕切弁を取り付ける。

28　フート弁は、ポンプの吸込み管の末端に取り付ける弁である。

29　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、引違い戸を表す平面表示記号である。



30　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、軽量ブロック壁を表す材料構造表示記号である。

